



公開授業の買い物シミュレーションの様子。この日はゲストティーチャーのパン屋さんの店長が味やパンの選び方を子どもたちにアドバイス。子どもたちはパン屋さんに積極的に質問していました

いる学校の一つに、東京都中央区立阪本小学校があります。明治六年開校と、長い歴史を有するこの阪本小学校は、中央区教育委員会研究奨励校であるほか、邦楽演奏の分野ではTBS子ども音楽コンクール東京大会において最優秀賞を受賞するなど、多方面で活躍している小学校です。

阪本小学校が、金融教育を活発に実施するようになったのは、平成十七年度に金融教育研究校(注1)に委嘱されたことがきっかけです。以来、総合的な学習の時間での「コレド阪本」(注2)をはじめ、多くの新しい取り組みが実施され、注目を集めています。

そのような金融教育の成果を発表する場として、平成十八年十月十七日に同校で開催されたのが「金融教育公開授業 in 東京」です。全国各地から四百名を超える教員・教育関係者が訪れた中、一年生から六年生まで、それぞれ身近なテーマを教材とした金融教育の授業が行われました。これらの授業で設定された研究主題は、「公共心の育成」。自分の暮らすまちや国を愛し、「みんなの中で生きていく知恵」を身に付けていく態度の育成

を目指しました。

地域の身近なパン屋さんを学習素材に

この中で、二年生が取り組んだのが生活科の授業「大すぎ、まちたんけん『パン屋さんへ行こう』」(全十二時間にわたる単元。公開授業はその中の一時間)。

これは、自分たちが住んでいるまちを探検し、調べる「町探検」を中心とした学習です。買い物体験などを通じて、まちに関心を持ち、地域の人々やさまざまな場所に親しみを持つとともに、友人と協力して取り組むことを学習のねらいとしています。

この十二時間にわたる単元では、運動会の「パン食い競争」のパンも提供している学区内のパン屋さん(以下、「パン屋さん」)を学習の場に設定しました。地域の身近なパン屋さんを学習素材とした教材開発を行うことで、地域についての親しみや愛着が深まり、子どもたちの学習意欲が高められるからです。

また、学習活動の工夫として、単元を通して何のために学習に取り組んでいるのかを明確にするために、テーマとゴール

(注1) 都道府県金融広報委員会の委嘱を受けて、金融教育に取り組む研究校。「金銭教育研究校」とあわせ、現在、全国で約150校(幼稚園、小・中学校、高校)。
(注2) 総合的な学習の時間に、校内に子どもたちが模擬店舗を開き、保護者や教育関係者の方々に対して手作りの商品などを販売する学習。名称は日本橋の商業施設「コレド日本橋」に因んだ。

買い物体験学習等を通じた金融教育

東京都中央区立阪本小学校

お金を通じて、生活や社会、将来について考える態度を養成する金融教育。このコーナーでは、学校における金融教育の展開・ノウハウについて紹介します。今回は、金融教育に熱心に取り組む東京都中央区立阪本小学校の授業例を紹介します。



今、なぜ金融教育か

金融・経済環境が激変する現在において、子どもたちや若者に必要なのは、現実の社会を生き抜くための確かな力です。お金に関する犯罪やトラブル、ニートと呼ばれる若者の増加などが社会問題化している中、お金や金融のさまざまなはたらきを理解し、自分の暮らしや社会について深く考えることを教える金融教育は、いまや子どもたちにとって不可欠な教育課題になっています。

確かに、学校でお金のことを教えるのはタブーといった意識が現在もなお残っています。しかし、金融教育は、お金の儲けを教えるものではありません。お金の通じて自分の生活、社会、将来についてしっかり考える態度を養うことに主眼を置いています。また、お金を手がかかりに授業を進めることで、生活や社会にかかわる知識や物事をより具体的に把握し、問題をより身近なもの、自分の問題としてとらえることができます。

金融教育を熱心に行う阪本小学校

現在、特に熱心に金融教育を展開して

「公共心育成に授業の活動がどのように関係があるか」

第2学年 「大すき、まちたんけん『パン屋さんへ行こう!』」 ◎関係の深い内容 活動	分析の視点				
	身近な人との接し方	公共の意識とマナー	生活と消費	成長への喜び	基本的な生活習慣や生活技能
①3年生にインタビューする活動	◎				
②実際に買い物に行く店を見学する活動		◎			
③買い物探検に向けて、計画を立てる活動			◎		◎
④運動会のパン食い競争を提供するパン屋さんでの買い物体験		◎	◎		
⑤感謝の気持ちを手紙に書き表す活動	◎			◎	

により、店に関する理解を深め、買い物体験への意欲を高めることができました。また、買い物計画を作成する必要性について把握しました。

その後、見学の様子を家族に話し、家族が「食べたいパン」は何かを聞きました(課外)。

六時間目が公開授業に当たりました。ここでは、見学を踏まえ、教室でパン購入のシミュレーション学習を行いました。パン屋さんの店長をゲストティーチャーとして迎え、味や材料、パンの選び方について質問しながら、千円という予算の範囲内で家族のために買うパンを考え、計算をして、購入するパンを選びました。

七八時間目には、グループに分かれ、目的や約束を意識して、パン屋さんへ買い物体験に行きました。買い物後には、買い物をしていった時に気付いたことを思い出して、買い物のポイントや感想をまとめました。

その後、実際に買ったパンを家族と食べ、買い物の様子を伝えました(課外)。

九時間目には、家族の感想を発表するとともに、買い物体験を通しての気持ちを、「ほしいパンの選び方」として発表し合

いきました。同時に買い物体験の感想やお店で買い物するときの買い方についてまとめました。

十時間目はこれまでの学習を振り返り、自分が自信を持ったこと、成長したことを発表し合いました。併せて、ほしいパンの選び方を、「買い方ブック」としてまとめ、発表しました。

十一・十二時間目には、お世話になった人に対して、お礼の仕方を考えました。活動の中で、うれしかったこと、感謝の気持ち、勉強になったこと、助けられたことを考えながら、お世話になった人へ感謝の手紙を書き、お礼の気持ちを伝えました。

金融教育で生活体験・社会体験を

現在の子どもたちは生活体験、社会体験等が不足しているとの指摘があります。そのような状況だからこそ、学校、家庭、地域が連携し、実際のお金のやり取りも含めた体験的な学習を含む金融教育を通して、具体的に知識や課題を、自分の暮らしや生き方とかかわらせて考えることは意義があります。今回の阪本小学校の二年生は、一連の取り組みを通じて、そのことを具体的に学ぶことができました。

真剣な表情の子どもたち。ちゃんと、予算の範囲内で、家族にパンを買うことができるかな。



を設定しました。テーマは、家族のほしいパンを予算の範囲で購入できるようにすること。そして、ほしいパンを選べる「買い方ブック」の作成を学習のゴールに設定しました。

さらに、学習を展開するに当たって、家庭やお店の協力を得るために、学習の趣旨等を事前に連絡したほか、パン屋さんには学習への協力をお願いしました。

体験的な学習で多くのことが学べる

すでに紹介したように、同校の研究主題は、公共心の育成です。二年生では、パン屋さんの見学、買い物体験、店員へのインタビューなどを通して、次の五つを重視しました。

- (一)身近な人々との接し方
地域のさまざまな人々と適切に接する。
- (二)公共の意識とマナー
みんなで使う物や場所などを正しく利用できる。さらに、他人に迷惑をかけるような、自分の行動を律する。
- (三)生活と消費
生活に必要な物を買ったり、大切に使うことができる。
- (四)成長への喜び

自分でできるようになったこと、生活で自分の役割が増えたことを喜び、成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持つことができる。

全十二時間の授業内容

それでは、全十二時間にわたる学習全体の概要について、ご紹介します。

一時間目は、朝ごはんパンを食べているクラスの家族の数を調べたり、学習の目的を伝えるなどして、パン屋さんへの興味・関心を高めました。

二時間目は、一年前に買い物体験を実施した二年生にインタビューするなどして、昨年の買い物体験についての意見や資料を集めました。

その後に行ったのは、家族にパン屋さんについてインタビューしたり、資料収集したりすることでした(課外)。

三・四時間目には、実際にパン屋さんを見学し、気付いたことをメモしました。五時間目には、パン屋さん見学の感想等をまとめ、情報を整理しました。これ

趣味の散歩道

～生活いきいき～



趣味は、私たちのくらしを楽しく、活気に満ちたものになります。このコーナーでは、毎回、気軽に行える趣味を取り上げます。今回は、老若男女を問わず、親しまれている俳句の魅力について俳人の河内静魚さんに紹介いただきました。

◆日々のくらしの中にある感動を表現

美しい風景を見る。ふと小鳥の鳴き声を聞く。そんなとき、思いがけず私たちの心は動かされます。そんな心の情景を、的確に

散らかり放題。飼猫が遊びまわり、部屋中のものをひっくり返していたのです。しかし、猫好きの友人は特段怒りもせず、部屋をあたたかもデイズニールランドのように思っただけでいたんだなと感じて、次の句を作りました。

部屋じゅうがデズニールランドうかれ猫

小塚 なな

とても楽しげで、愛猫をかわいがる作者の優しさが伝わります。俳句とは、肩肘張らずに、生活の中で感じたままをリズムミカルに表現すればいいのです。

◆素材は身近なところにある

このように、俳句を生み出す素材も、身近な毎日の生活の中に満ちています。通勤ですれ違う人、電車の窓から見える美しい風景、会社や家庭での悲喜（こもごも）、日常生活で私たちの心を刺激するあらゆるものが、俳句の題材となります。

夏の身近な「くらし」にかかわる季語

(立夏・5月6日から立秋の前日・8月7日まで)

入梅・南風・虹・夕立・雷・夕焼け・青田・土用波・衣更・ハンカチ・浴衣・水着・冷麦・ラムネ・心太・水羊羹・鱧・初鯉・トマト・日除・青簾・蚊帳・香水・団扇・風鈴・走馬燈・切子・打ち水・日傘・箱庭・花火・金魚売・帰省・避暑・納涼・海水浴・鬼灯市・時鳥・螢・蟬・蝸牛・向日葵

「言いおわせて何かある」

松尾芭蕉の言葉。俳句のような短い形式は、心の中の思いを百パーセント言い尽くしてしまうのではなく、感動の一断面を切り取り余韻を活かすところに特徴があります。感動の核心を切り取って提示することで余韻を活かすのです。

言い表すことができたら、どれほど楽しいでしょう。俳句は、日常生活の中で気になった情景や、感動を表現するのに、最適の形式です。

とはいえ俳句と聞いただけで、とっつきにくさを感じる人も多いと思います。理由の一つは、俳句とは日々のくらしとかけ離れた文芸だとの誤解があるのではないのでしょうか。しかし、俳句はそんなに難しいものではありません。

私の友人に、猫を飼っている人がいます。ある日帰宅して驚きました。部屋中のものが、

ある夏の夕方のことです。家の中でくつろいでいるとき、台所から洗い物の音が聞こえてきました。その音を聞いてみると、亡くなった母が皿洗いをしているような気がなぜかして、ふいに口から出た句が、次の句です。

夕焼や母あるやうな皿の音

河内 静魚

俳句の題材は旅行先での景勝地だけに限りません。家の中の何気ない様子も、立派な素材となります。

俳句を作るに当たっては、確かに最初のうちは、自由な文章や会話では感じることはない戸惑い、苦しみもあると思います。季語を入れて、季節感も表現しなければなりません。私も当初は指折り数えながら、あでもない、こうでもない、頭を悩ませていたものです。しかし、だからこそ、作り上げたときの喜びもひとしおなのです。

第1回 — 俳句

俳句は、気軽にできる趣味です



俳人 河内 静魚

●かわうち せいぎょ●1950年、宮城県生まれ。新聞記者を経て、現在政府関係法人に勤務。「穂」主宰。「寒雷」同人。朝日俳句新人賞準賞。句集『花鳥』『手毬』など。著書『俳句の楽しさ』『楸邨俳句365日』（共同執筆）『わが心の俳人伝』など。

◆句会へ参加しませんが

俳句をさらに楽しむために、私がお勧めしたいのが、句会への参加です。

句会とは、自分たちの作った句を持ち寄り、その句を参加者みんなで鑑賞し合う共同作業の場で、全国各地で行われています。自分が作った句を発表し、仲間の意見に耳を傾ける。逆に、仲間の作品との出会いに感動する。俳句を通じて、人間同士のつながりを深めることができます。

そもそも私が俳句を始めたのも、三十年以上前に職場の句会に参加したのがきっかけです。肩書きも上司部下の関係も越えて、自由な雰囲気です。笑い合いながら、俳句を楽しむ句会に魅力を感じたのでした。

世の中には、物事の上手、下手を言う人がいますが、俳句については、それはあまり意味がありません。自分の生活の中で発見した情景や感動を、季節感を通して、日記のように十七音で表現することに楽しさを感じれば、その人は立派な俳人といえます。

俳句は数ある趣味の中でも、最も気軽にできる趣味です。道具も紙と鉛筆と歳時記さえあれば十分です。お金もかかりません。まずは、始めてみませんか。(談)